



琉球諸島： その特異な成り立ちと生物多様性

The Ryukyu Archipelago: Its Unique Geological History and Biodiversity

プログラム

伊澤 雅子 13:50~13:55

(琉球大学・名誉教授)

開会挨拶・趣旨説明

井龍 康文 13:55~14:30

(東北大学・大学院理学研究科・教授)

地層と生物が語る琉球諸島、激動の800万年史

太田 英利 14:30~15:05

(兵庫県立大学・自然・環境科学研究所・所長)

琉球諸島はまるごと自然史博物館：
特異な環境履歴が生み出した貴重な生物相

15:05~15:15 休憩(10分)

琉球諸島で進む哺乳類の最新研究

黒岩 麻里 15:15~15:35

(北海道大学・大学院理学研究院・教授)

トゲネズミ属の性決定メカニズムの進化

中西 希 15:35~15:55

(北九州市立自然史・歴史博物館・学芸員)

イリオモテヤマネコの生活史と社会構造

15:55~16:20 総合討論



9/9 土
2023年

入場無料
予約不要

開場13:30 開会13:50

那覇文化芸術劇場なは一と

写真提供 イリオモテヤマネコ © 琉球大学動物生態学研究室 アマミノクロウサギ、アマミトゲネズミ © 平城達哉
ケナガネズミ © 小林峻 ミヤコカナヘビ © 関慎太郎 ミヤコヒキガエル © 増永元 ※順不同

- 日時** 2023年9月9日(土) 13:50~16:20 (開場13:30)
- 主催** 日本哺乳類学会 Mammalogical Society of Japan
- 会場** 那覇文化芸術劇場なは一と (沖縄県那覇市久茂地3-26-27) (1,100席)
アクセス(最寄駅) モノレール **6** 県庁前駅(徒歩6分) **7** 美栄橋駅(徒歩6分)
バス **①** 若松入口(徒歩6分) **②** 久茂地公民館前(徒歩2分)
③ 沖銀本店前(徒歩6分) **④** 松尾1丁目(徒歩6分)
⑤ 松尾(徒歩6分)

※一般駐車場はございません。公共交通機関をご利用ください。



連絡先 沖縄大学経法商学部内 日本哺乳類学会2023年度100周年記念沖縄大会事務局
〒902-8521 沖縄県那覇市国場555 TEL:098-901-7295 E-mail:msj2023@okinawa-u.ac.jp

公開シンポジウム概要

琉球諸島の特異な生物相は、本地域の世界的にも稀な複雑な地史と深い関係があり、世界自然遺産登録の上でも高く評価されました。本地域の生物相を理解するためには、「現在」ばかりでなく「過去」にも目を向ける必要があります。近年、地学分野と生物学分野の両方で次々と新しい知見が出てきており、琉球諸島の生物相の由来についてのストーリーが整理されつつあります。

本シンポジウムでは、地学と生物学の両方の側面から琉球諸島の成り立ちとそこから生まれた独特の生物相の最新の理解をまとめます。また、一方で、現生の哺乳類について進んでいる研究とそこで得られた新しい知見を共有します。

講演者の紹介



伊澤 雅子 (琉球大学・名誉教授)

Masako Izawa

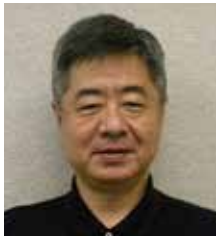
ネコ科に興味があり、イリオモテヤマネコなどの研究に取り組んできました。その過程で、琉球諸島の動物たちがそれぞれに独特の生態を持ち、それが島嶼という場に起因していることがとても面白いと思ひ、「島」をキーとした研究を続けたいと思っています。



井龍 康文 (東北大学大学院理学研究科・教授)

Yasufumi Iryu

世界各地の様々な地質時代の堆積物や化石から過去の地球環境を読み解く研究を行なっています。本日は、琉球諸島がユーラシア大陸から離れてから現在に至るまでの激動の変動史を最新のデータと仮説に基づいてお話しします。



太田 英利 (兵庫県立大学・自然・環境科学研究所・所長)

Hidetoshi Ota

爬虫類の分類、進化、系統地理などに興味があり、長く琉球や台湾をフィールドに、研究に取り組んで来ました。近年、地質学や考古学といった分野からの情報の重要性を実感する機会が多く、老いた脳に鞭打ちつつ、あらたな領域の学びに挑戦しています。



黒岩 麻里 (北海道大学・大学院理学研究院・教授)

Asato Kuroiwa

琉球諸島固有のトゲネズミ属は、Y染色体を完全に消失している世界的にも極めて珍しい哺乳類です。本講演では、トゲネズミ属に起きたY染色体の消失と新しい性決定メカニズムをご紹介します。琉球諸島が育んだ多様な進化についてお話しします。



中西 希 (北九州市立自然史・歴史博物館・学芸員)

Nozomi Nakanishi

イリオモテヤマネコの生態研究は飼育下における行動観察から始め、大学院進学後からフィールドワークを継続しています。2019年から博物館学芸員として、食肉目以外の哺乳類についても日々勉強中です。

日本哺乳類学会2023年度大会ホームページ
<https://msj2023.sakura.ne.jp/symposium.html>

